

# フリーア美術館 (米国ワシントンDC) 門外不出の日本美術の宝庫

## [1] フリーア美術館概要

### フリーア美術館 基本情報

所在地	所在地 米国ワシントン DC Independence Ave at 12th St SW, Washington, DC 20560
美術館面積	16,834㎡
開館時間	10:00~17:30
休館日	12月25日
入館料	無料
付帯施設	東アジア絵画保存スタジオ、技術研究所、アジア美術調査図書館
アクセス	スミソニアン駅下車 徒歩1分
ホームページ	<a href="http://asia.si.edu/">http://asia.si.edu/</a>



美術館スタッフ	ステファン・アリー	- アソシエイト・キュレーター (中国絵画・書)
	ルイーズ・コート	- キュレーター (陶磁器)
	デブラ・ダイヤモンド	- キュレーター (南アジア・東南アジア美術)
	マスーム・ファラド	- チーフ・キュレーター (イスラム美術)
	リー・グレイザー	- アソシエイト・キュレーター (アメリカ美術)
	キャロル・フー	- アソシエイト・キュレーター (現代アジア美術)
	アメリア・メイヤー	- キュレトリアル・アシスタント
	ナンシー・ミッكلライト	- パブリック・アンド・スカラリー・エンゲージメント担当責任者
	ジュリアン・レイビー	- フリーア   サックラー美術館 館長
	更井貴子	- キュレトリアル・アシスタント
	ジネップ・サイマヴィ	- プログラム・スペシャリスト、 パブリック・アンド・スカラリー・エンゲージメント担当
	ジャン・スチュアート	- キュレーター (中国美術)
	ウェイナ・トレイ	- キュレトリアル・アシスタント (中国プログラム)
	ジェームス・ユーラック	- シニア・キュレーター (日本美術)
	トム・ヴィック	- キュレーター (映像)
	J・キース・ウィルソン	- キュレーター (古代中国美術)
	アン・ヨネムラ	- シニア・アソシエイト・キュレーター (日本美術)

所蔵品数	フリーア美術館	約25,000点
	アーサー・M・サックラー・ギャラリー	約15,000点

来場者数	フリーア美術館	389,000人 (2015年実績、2016年は休館)
	アーサー・M・サックラー・ギャラリー	213,000人 (2016年)

## ◆ 実業家フリーアのコレクションからなる美術館

フリーア美術館は、アメリカ・ワシントンDCにある世界最大の博物館群として知られるスミソニアン博物館群のなかで最初に開設されたファイン・アートの美術館です。

たたき上げの実業家であり、独学の目利きであったチャールズ・ラング・フリーア(1854-1919)が、1880年代から1919年の死去までに蒐集した7,500点もの美術品(うち、日本美術は約2,000点)を、スミソニアン協会に寄贈し、1923年に設立されました。フリーアの遺産は、フリーア美術館の所蔵品として引き継がれ、現在、アメリカ国内で最も大きなプライベートコレクションとなっています。フリーアの遺言により、当館の所蔵品はすべて門外不出となっており、フリーア美術館でしか観ることができません。

当館では、フリーアの意味を尊重し、作品を大切に保管するとともに、コレクションの充実と研究・教育普及活動を通じて文化の交流に努めています。フリーア美術館は、現在、アーサー・M・サックラー・ギャラリーと同じ建物の中にあり、それぞれの特徴を活かした展示、調査、教育活動、保存活動を行っています。



## ◆ 独自の審美眼で蒐集されたアジア美術の宝庫

フリーアは、ジャポニズムに強く影響を受けたジェームズ・マクニール・ホイッスラー(1834-1903)との交友を通じて、アジア美術に深い関心を抱くようになり、多くの国を旅する中で、中世の日本と19世紀アメリカのような、異なった文化間の美的な関係や類似点を発見することに喜びを感じていました。

コレクションは、フリーアの審美眼に基づいた、絵画をはじめ、陶磁器、ブロンズ、彫刻、テキスタイルといった膨大なもので、日本、韓国、中国、インド、パキスタン、トルコ、イラン、イラク、シリア、中央アジアの美術、また、点数は少ないながらも非常に重要な初期キリスト教美術とエジプト美術など、幅広い地域・時代に及んでいます。

寄贈にあたり、フリーアが指示した指針に基づき、当館ではコレクションの充実を図っており、現在の所蔵品数は総数約25,000点に及んでいますが、フリーアの独特の視点による所蔵品は、今なおフリーア美術館の根幹を形成しています。



## ◆ 研究・調査活動

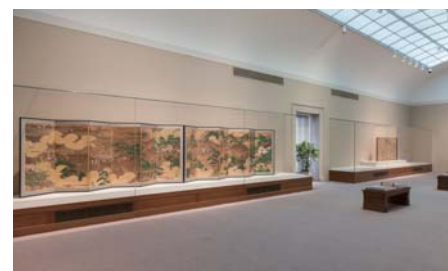
フリーア美術館は研究・調査施設として「東アジア絵画保存スタジオ(EAPCS:the East Asian Painting Conservation Studio)」「技術研究所」(1951設立)を設けています。

「東アジア絵画保存スタジオ」は、アジア絵画の保存に特化したアメリカ国内では非常に数少ない機関のひとつとして活動しています。技術研究所は、美術研究に対する科学的な手法に取り組む施設としてはスミソニアン博物館で初めて設立されたものです。1960年からEAPCSは3名の日本人スタッフを有し、伝統的な日本美術の素材や制作の技法に即したプロジェクトへの支援を行っています。

また、アメリカにおけるアジア美術の資料庫として最も大規模な図書館を併設しており、1,000点近い稀少本を含め80,000点もの資料を所蔵しています。

## ◆ 近年の日本美術展

当館では、日本美術の企画展を定期的で開催しています。近年開催したものととして、「プライス・コレクション」展(2007)、「ドワイト・トライオンと杉本博司」展(2008)、「狩野 一信」展(2012)、「日本のメゾチント」展(2012)、「北斎」展(2012)、「プルヴェラー・コレクション」展(2013)、「小林 清親」展(2014)、「千種と茶の湯」展(2014)、「俵屋宗達」展(2015)、「喜多川歌麿」展(2017)などがあります。



## [2] チャールズ・ラング・フリーアの生涯

### ◆ 後半生を美術蒐集に捧げた実業家

チャールズ・ラング・フリーアは、1854年、ニューヨーク州の裕福でない家庭に生まれました。母親の死により、14歳で学校を辞め、家計を助けるためにセメント工場で働きはじめます。1880年には、デトロイトに移り住み、貨物列車の車両を作る会社を設立、1899年、自社と他の13の車両メーカーとを合併して巨大な鉄道車両会社を作り上げ、成功を収めました。1900年には事業の第一線から退き、美術蒐集の研究と充実に専念するようになりました。



### ◆ ホイッスラー、そしてアジア美術との出会い

1882年、デトロイトでの一人暮らしの部屋を飾るために購入したエッチングが、フリーアが初めて購入した美術品でした。当時のほとんどのアメリカ人と同様、ヨーロッパとアメリカの画家の作品の蒐集から始めたフリーアは、特にホイッスラーの作品に強い感動を受けました。1904年に購入してアメリカに移設した「青と金色のハーモニー：ピーコック・ルーム」は、質の高い彼のホイッスラーのコレクションの中で最も良く知られているものです。

個人的にもホイッスラーと交友を深めるようになったフリーアは、ホイッスラーのアジア美術への深い関心を共有するようになります。



### ◆ 日本訪問、日本での交友

アジアへの目を開かされたフリーアは、1895年から1911年にかけて、日本を5回訪問、特に興味を持ったのは絵画、陶磁器、茶道具だったといます。1887年に初めて購入したアジア美術は、絵が描かれた日本の扇でした。

日本滞在中は、実業家であり茶人でもあった原三溪(1868~1939)や当時日本に招聘されていたアーネスト・フェノロサ(1853~1908)などと交流を重ねる中で、日本と日本美術への関心を深めていきます。

東洋と西洋の関係に着目した新しい世界観によって、フリーアは個性的で、風変わりと言えも言える視点から美術品を買い求めました。生涯において蒐集した日本美術は絵画、屏風、陶磁器など、約2,000点に上ります。



### ◆ 遺産をスミソニアン博物館に寄贈

フリーアはヨーロッパ、西アジア、エジプト、インド、そして東南アジアにも旅し、研究し、研究者に会い、美術品を購入しました。

1904年に、フリーアはスミソニアン博物館にコレクションの寄贈を申し出ましたが、当初スミソニアン博物館は、科学的な博物館群に美術品を受け入れることを迷っていました。しかし、当時のセオドア・ルーズベルト大統領が関心を示したことにより、1906年に申し出は受諾され、フリーアは 9,470点の寄贈と美術館建設の資金を寄付しました。フリーアは、建築する美術館についても明確なイメージを持っており、美術館はその意向を反映したもののですが、1923年の開館を待たず1919年に亡くなりました。



## ◆ James Ulak, PhD

Senior Curator of Japanese Art  
Freer Gallery of Art and Arthur M. Sackler Gallery

### ジェームス・ユーラック (博士)

日本美術主任キュレーター  
フリーア美術館 / アーサー・M・サックラー・ギャラリー

日本の中世(14~15世紀)の物語絵画の歴史が専門。1994年、ケース・ウェスタン・リザーブ大学(オハイオ州クリーブランド)にて博士号を取得。翌年、フリーア | サックラー美術館の日本美術キュレーターに就任。チーフ・キュレーター(2002~2003年)、副館長(2003~2010年)を経て、現職。クリーブランド美術館研究員(1982~1985)、エール大学美術館アジア美術アソシエイト・キュレーター(1989~1994)、シカゴ美術館日本美術アソシエイト・キュレーター(1989~1994)などを歴任。

ユーラック博士は、フリーア | サックラーにおいて、キュレーション、調査・研究、アーカイブ事業、図書室、デザイン、保存・修復活動、収蔵品管理を監督・指揮する管理職任務を担っています。また、東アジアにおける絵画の保存やデジタル化における調査プログラムの開発とファンディングに精力的に取り組み、日本美術に関する幅広い執筆活動を行っています。

専門である中世の日本物語絵画に関する著作のほか、18世紀の「奇想」絵師たちや、19世紀後期から20世紀初期における日本美術の近代との接触についても執筆。しばしば日本の文化庁とも連携し、数多くの展覧会を手がけています。

ユーラック博士による近年の企画として、東京・増上寺が所蔵する狩野一信の五百羅漢図を西洋で初めて紹介した「Masters of Mercy: The Buddha's Amazing Disciples (2012)」、小林清親(1847~1915)による、近代化の途上にあった1870年代の東京の木版画を紹介した「Kiyochika: Master of the Night (2014)」、国際交流基金との協働による、俵屋宗達の大規模展「Sotatsu: Making Waves (2015-16)」などがあります。

ユーラック博士は、フリーア | サックラーでの仕事に加え、アメリカ、ヨーロッパ、日本の数多くの美術館、個人コレクション、基金などでの顧問・アドバイザーを務めています。全米最大の芸術支援組織である全米芸術基金による、美術品の国家補償制度検討プログラムでも委員として参加、2015年からは議長を務めています。

2010年春、博士の文化交流における日米の相互関係発展への貢献に対して、日本政府より旭日小綬章を授与されました。

